

斜位の籠描直線文で飾る。胎土は精良といつてよい。

七 綾塚古墳(国指定史跡)

概要

この古墳は観音山(鹿ヶ峰)から延

びる丘陵の先端に位置する。昭和五十五年(一九八〇)、墳丘南東部の崖面崩壊に伴う整備がなされ、その際に墳丘測量調査が行われた。平成七年(一九九五)には宮崎大学・勝山町教育委員会により石室実測が行われた。

墳丘

山側部分を馬蹄形に掘って周溝とし、その土を盛り上げて墳丘を構築したもので、墳丘南東部が崩れているものの、橋塚古墳に比べると残存状況は良好である。周溝は幅一五メートル、深さ五メートルほどの規模で掘削がなされ、溝底でも幅一〇メートルを測る。

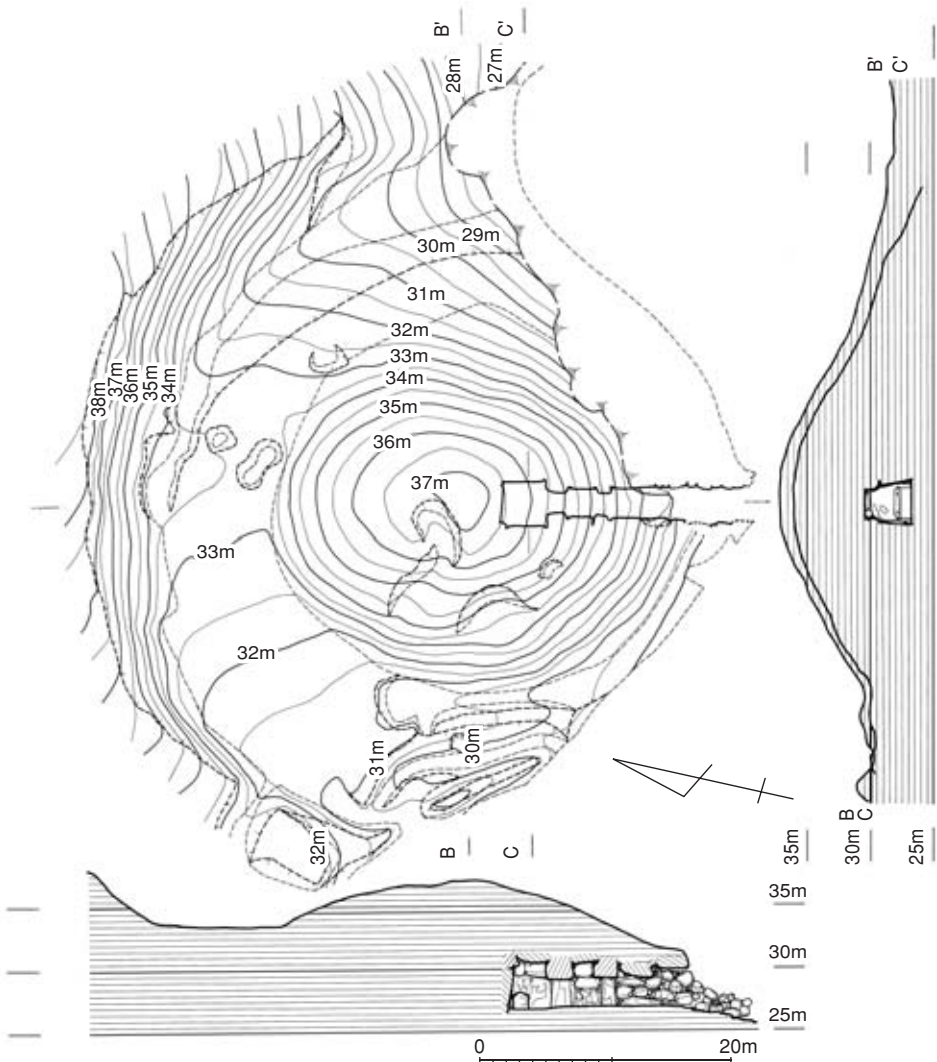


図2-139 綾塚古墳墳丘測量図 (1/600)

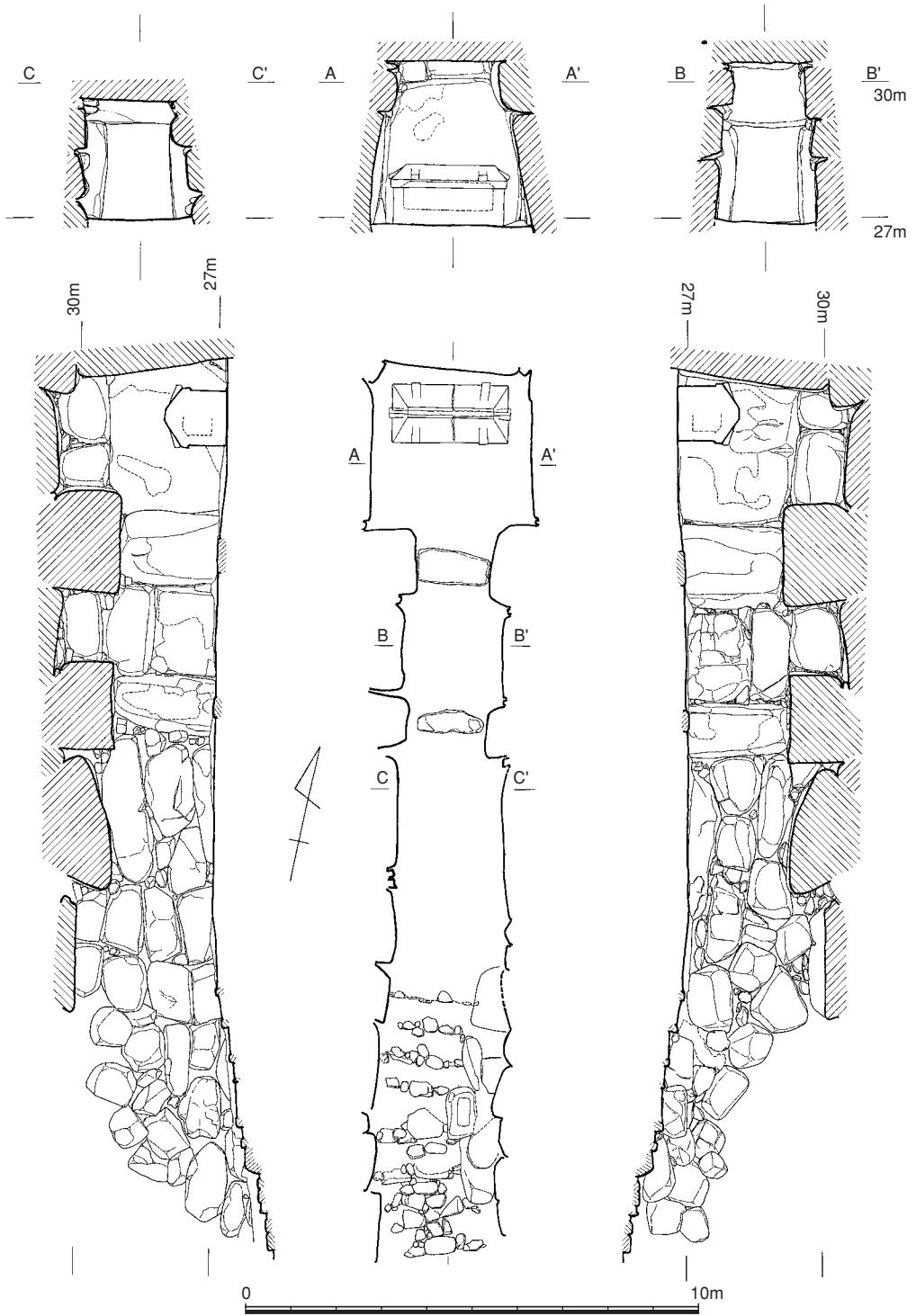


图2—140 綾塚古墳主体部実測図 (1/150)

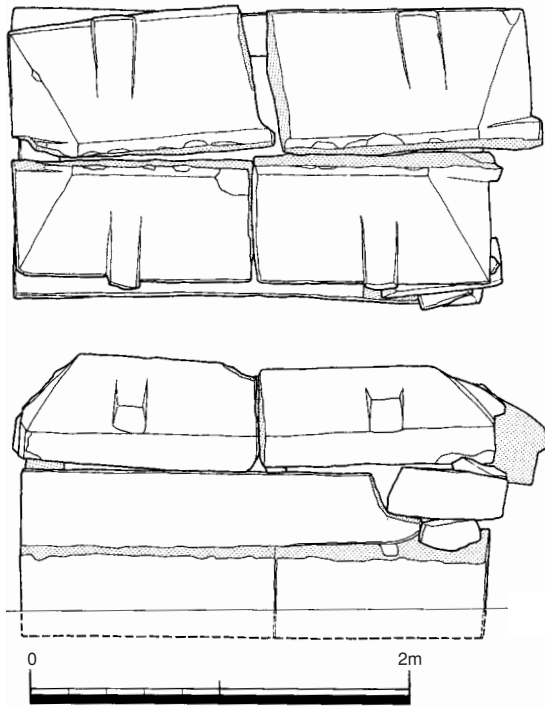


図2—141 綾塚古墳家形石棺実測図 (1/40)

盛土部分は東西方向で三〇センチ、南北方向で三八センチと現状では楕円形に近い形状であるが、発掘調査を行っていないので細部は不明である。石室床面から墳頂部までの高さはほぼ一〇センチを測る。段築や葺石・埴輪も確認できていない。

主体部

橋塚古墳と同様に花崗岩の巨石を用いて構築された複室構造の横穴式石室で、全長約一九センチを測る。これは国内では奈良県見瀬丸山古墳・福岡県宮地嶽古墳に次ぐ規模である。羨道入口付近の東側に一字一石塔、西側には猿田彦大神が祀られ、羨道部に手水鉢が据えられている（下

巻七編第二節 石造物参照）。

これらの石造物には羨道の石材が転用された可能性もあり、開口部付近に一部積み直した痕跡も確認できることから本来の石室全長は現状とは異なるものと思われる。

羨道は花崗岩の巨石を重箱積みに積み上げて構築している。一部の天井石を花崗岩の円柱で支えているが、円柱下部に「藁座」とよばれる古い段階の石製鳥居にみられる特徴が確認できることから鳥居の脚部と推測でき、転用されたことが確認できる。「延宝八庚申年（一六八〇）三月吉祥日……」と年号が刻まれていることから、町内最古の鳥居に位置付けられる（下巻七編第二節 石造物参照）。

玄室奥壁に並行して刳貫式家型石棺が安置されている。棺身は外寸で二・四八×一・二二×〇・八三センチ、棺蓋は二・六×一・三〇×〇・五二センチを測り、長辺に二対、短辺に一对の縄掛突起を作出する。石材は蓋・身ともデイサイト質凝灰岩とみられ、粒状の角閃石がまばらに含まれている。石棺の蓋の形態は奈良県見瀬丸山古墳前棺や奈良県植山古墳例に類似している。この石棺は京築地方で唯一確認できる家形石棺であるが、蓋・身とも四分割されている。これは慶長年間細川忠興の家臣、加々山隼人・益田蔵人・小谷文右衛門・成水丹後等の数人が石棺を割り、小倉に運ぼうとしたところ、数々の災害が起きたので中止して元に戻したという記録が残っているが、それを裏付

表2—14 主要大型横穴式石室墳一覧

古墳名称	所在地	石室全長(単位.m)	推定被葬者
見瀬丸山古墳	奈良県橿原市	28.4 (国内最大)	欽明天皇・堅塩媛
石舞台古墳	奈良県明日香村	19.08	蘇我馬子
藤ノ木古墳	奈良県斑鳩町	14.5	小姉君(聖徳太子の祖母)、茨城・葛城・泥部穴穂部皇子(小姉君の子)
牧野古墳	奈良県広陵町	17.2	押坂彦人大兄皇子
宮地嶽古墳	福岡県福津市	22 (九州最大)	胸形君徳善(天武天皇の妃、尼子姫の父)

ける痕跡といえる。

玄室内には土師器灯明皿片の他、碁石大から小指大の表面が平滑な石が散見でき、石棺内にも確認できる。石棺前面に安置されている手水鉢状の石造物の表面には「一石一遍題目 一万遍 奉法楽 施主 菅検校家 小倉諸頭道延宝七己 未三月吉日」とあり、大正時代に発表された梅原末治の報告によれば石棺内にまだ一字一石経が充満していたことが確認されているから、石棺を含む玄室全体が江戸時代には一字一石経塚として用いられたことが推測できる。また玄室内から熙寧元寶(一〇六八年発行開始・北宋銭)や十一・二世紀頃の白磁片が出土し、開口時期特定の参考資料といえる。

なお、昭和五十年二月、石室内に装飾があると報道されたことがあるが、現在では確認することができな

い。

石室構造を橘塚古墳と比較してみると、橘塚は羨道入口が顕著にハの字形に開き、主軸は入口から玄室奥壁にかけやや東側に振り、玄室は前室の天井の高さに比べ若干高く、側壁は三段積みで玄室平面プランは長方形を呈する。これに対して綾塚古墳は羨道入り口が若干ハの字形に開く程度で、主軸は入口から玄室奥壁まで直線的な形を呈する。玄室は前室の天井の高さとほぼ同じ高さに造られ、側壁は二段積みで、玄室平面プランはほぼ正方形となる。これらの比較から綾塚古墳は橘塚古墳に後出し、その築造年代は七世紀初頭ごろに位置付けられる。

橘塚・綾塚古墳の横穴式石室の規模を国内の大規模石室墳と比較してみると、表2—14のようになる。この表から橘塚・綾塚古墳の石室は、ヤマト政権中枢の人々の墓所と推定される古墳に匹敵する規模である事が分かる。

以前は鬱蒼とした森であった墳丘は、平成十六年(二〇〇四)十二月に伐採を行った結果、明治四年の古絵図に描かれているように墳丘の形が明確に確認できるようになり、往時を偲ばせる。

八 勝山古墳群

勝山神社が位置する丘陵上には低墳丘の古墳が数基目視できているが、ここで報告する古墳群はその南東裾に位置する。神社鳥